



2017 ギラヴァンツ北九州 週刊ニュース Vol.41

■平成 29 年 12 月 5 日発行
発行元：ギラヴァンツ北九州

最終戦は後半、怒濤の攻めを見せるも有終の美を飾れずドロー！



「申し訳ない気持ちで一杯だが、この一年を無駄にせず来年の昇格の為に一生懸命頑張る。」と語った同点弾を決めたMF20 花井選手。



「(引退する)最後の最後までピッチに立ち続けられて言葉以上に皆さんに恩返しができたかな。」と語った見事なアシストのDF6 西嶋選手。

明治安田生命 J3リーグ 2017 第34節 @長野Uスタジアム 長野 1(1/0-0/1)1 北九州

12月3日（日）13:03 キックオフ。朝の気温がマイナス2度、キックオフ時でも9度という環境が影響したのか立ち上がりから動きが鈍く、セカンドボールも殆んど支配され、ゴール前に押し込められ防戦一方を強いられた北九州。長い攻撃を何とか耐え続けたが、ついに前半33分、コーナーキックからアクロバティックなオーバーヘッドシュートを決められ、先制を許す。

後半は一転して北九州が攻撃に出る。特に後半早々にFW水永選手を投入してからは、前半の裏返しのように北九州が支配して右へ左へと展開しながら波状攻撃が続く。2列目3列目からも次々に攻撃参加した後半18分、中央で受けたMF20 花井選手が一旦、右サイドに振って中へ進入。これをもらったDF6 西嶋選手がゴール前でフリーになった花井選手へ絶妙なセンタリングを上げると、見事なヘディングで突き刺し同点。その後も攻め続ける北九州は何度も惜しいチャンスを作りながらも、ポストをわずかにかすめたり、相手DFの捨て身のディフェンスに防がれてドローのまま終了。残念ながら、長野まで駆け付けた北九州のファンに勝利の喜びを分かつことができなかった。

昇格目標がなくなっての5試合だったが、踏ん張りを見せて2勝3分けの負けなしで締めくくった。



最終戦は小倉駅JAM広場でパブリックビューを実施
構内とはいえ、足先から冷えるJAM広場。立見も多く出た会場には320人を超すファンが詰めかけて必死に声援を送った。前半は防戦一方で重苦しい雰囲気が漂つたが、後半同点に追いついてからは声援が一段と高まり、多くの通行人も立ち止まって見入っていた。サポーターは最後まで勝利を信じてタオルを回したり、腕を広げての拍手など各種応援を一つになって送り続けた。

2017シーズン報告会のご案内 @アイム 10F 小倉ナチュガーデン
12/9(土) 13:30 開会